



11月15日(月)

住吉神社参拝 10:30~11:00 (3、4、5歳児)

千歳飴配布 15:00

七五三は毎年11月15日に行われ、子供の成長をお祝いし元気に育つようお願いする日です。着物や袴を着たり、神さまにお参りに行ったり、写真を撮って、千歳飴を食べて…みんな何となく知っている七五三ですが、どうして3歳、5歳、7歳の時に祝うのでしょうか？

江戸時代は、今のように色々な種類の薬や病院がなく、子供は病気にもかかりやすかったそうです。特に7歳までは病気にかかりやすいとされ、そこで子供たちが元気に育つように、神さまをお願いする儀式が、今の七五三へと受け継がれました。

昔行われていたのは、3歳で「髪置き」と呼ばれる髪を伸ばす儀式、5歳で「袴着」という袴をつける儀式、7歳で「帯解き」という着物を留めている紐を帯に変える儀式です。一般的に、男の子が3歳と5歳、女の子は3歳と7歳に神さまにお参りします。

七五三は、どんな過ごし方をするのでしょうか？子供が大きくなったことを神さまにお礼し、これからも健康で元気に大きく成長しますようにと願います。おうちの人とみんなで神社に行くのもいいですし、当園ではお散歩で町内に在る住吉神社に行きます。

11月15日には、その七五三に欠かせない千歳飴を袋に入れて3、4、5歳児に渡します。千歳飴は、1000歳の飴と描きます。1000歳まで生きることは難しいけれど、それぐらい元気に長生きできますようにという願いが込められています。それだから飴も飴が入っている袋もとても長いのですね。

七五三が11月15日に定められた理由は、出雲大社に神が集まると言われている11月に、七五三の全ての数字を足すと十五であることから、15日に定められたと言われています。

大きく成長したことを子供たちと一緒に喜び合おう！

(こ)

# 七五三詣

子供たちの成長に感謝と喜びをこめて！

